

情けは人のためならず

令和元年 12 月
立川女子高等学校
カウンセラー だより

「情けは人のためならず」という諺（ことわざ）があります。これは、「人に情けをかけるのは、その人のためになるばかりでなく、やがてはめぐりめぐって自分に返ってくる。人には親切にせよ。」という意味です。

例えば、自分が持っているものを困っている友達に貸したり、分けてあげたり、時間を取って相談に乗ったりすると、なんだか損をした気分になったり、自分の分や時間が減ってしまうように感じてしまうこともあると思います。



しかし、例えば、友達にパンを分けてあげたとしたら、そのパンは減りますが、一緒に食べる楽しい時間や、友達との間の絆は深まっていきます。

このように、情けは、心や時間を豊かにしてくれるものでもあります。



もちろん、我慢して自分を犠牲にして他の人に尽くすこととは違います。心からの優しい気持ち、何か役に立てるかなという思いから行動したことが、「人のためならず」、いつか自分のところへ何倍にもなって返ってくるのです。

わたしにもこんなことがありました。

ある日、困っている友達から相談を受け、その子のためにある行動をしました。そのことはすっかり忘れて、何年か経ったあと、自分に困ったことが起こったときに、なぜか急にその友達から連絡が来て、今度はその子が相談に乗って助けてくれたのです。その友達には連絡もあんまりしていなかったにも関わらず、タイムリーに連絡が来て、その流れでとても貴重なアドバイスをもらうことが出来ました。その友達とも何年か越しの嬉しい再会を果たし、思ってもみなかったご褒美を頂いた気分でした。

人に尽くした優しさは、すぐに戻って来るとは限りません。

また、その本人から戻って来るとも限りません。だからこそ、見返りを期待するのではなく、「いつこの優しさが返ってくるのかな、どこから返ってくるのかな」とのんびりと、執着はせずに、静かにわくわくしながら生きていくのも、とても素敵な在り方であると思います。

